

資料－６

第１０回 後志利別川水系外減災対策協議会

タイムライン勉強会について

令和８年２月２６日

「後志利別川流域タイムライン試行版」勉強会

平成30年7月「後志利別川流域タイムライン試行版」完成式において後志利別川流域タイムライン試行版を完成させ試行運用していたところですが、年月も経過しており、改めて関係機関全体の認識共有、防災行動上の課題抽出を目的とし、令和8年1月20日（火）せたな町民ふれあいプラザにおいて、『「後志利別川流域タイムライン試行版」勉強会』を開催しました。勉強会では、「タイムライン防災の意義と目的」「後志利別川流域タイムラインの検討経緯と概要」「後志利別川流域の運用方法」「防災情報の内容と活用方法」について講演・説明を行った後に、全体での質疑応答を行いました。

- 開催日時 令和8年1月20日（火） 13:15 ~ 15:15
- 実施場所 せたな町民ふれあいプラザ
- 参加機関 今金町、せたな町、函館開発建設部、函館地方気象台 他 8機関 30名

勉強会

特定非営利活動法人環境防災総合政策研究機構の加村事務局次長が、「タイムライン防災の意義と目的」とのテーマで1. 災害発生前から「いつ、誰が、何をするか」を時系列で定めておくタイムライン防災の重要性を解説しました。

また、後志利別川流域タイムラインの具体的な内容として、せたな町の栗城係長より平成29年の台風被害を教訓に、全国に先駆けて流域全体で策定されたタイムラインの経緯を説明した後、函館開発建設部の橋本専門官より函館開発建設部を中心とする運営事務局がステージ移行を判断し、メーリングリストで情報を共有する等具体的な運用方法を説明しました。

さらに、函館地方気象台の宇恵野防災管理官と函館開発建設部の橋本専門官より「防災気象情報の改善について（新しい防災気象情報等）」や、ダム洪水予測、河川水位予測、水害リスクラインといった高度な河川情報の活用法を解説しました。これらの情報をタイムラインと連動させ、早期の避難判断や防災行動に繋げることの重要性が強調されました。



会場の様子



函館開発建設部
橋本専門官



函館地方気象台
宇恵野防災管理官

質疑応答・意見交換



函館開発建設部
中尾課長

函館開発建設部の中尾課長の進行で質疑応答・意見交換を行い、参加機関からの感想や今後の取り組みに関する発言が多く寄せられました。特にタイムラインの運用における課題認識や今後の訓練実施に向けた期待が共有されました。

質疑応答・意見交換の内容を総括しつつ、タイムラインは「作って終わり」ではなく、「スタートライン」であり、訓練や見直しを通じて継続的に最適化していくことが重要であることを強調するとともに、タイムラインの取り組みを寄り広い範囲に広げていくことの重要性を述べて勉強会を締めくくりました。

後志利別川流域では今年度の取り組みを次年度以降も継続・発展させていく予定です。